

令和3年12月13日

お知らせ

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、
内容が変更になる場合があります。

京都市文化市民局
〔担当 元離宮二条城事務所〕
〔TEL 841-0096〕

「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 令和3年度第4期
とおざむらい まも
〈遠侍〉虎の間の障壁画～御殿を護る竹林の王者～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、年4期にわたり二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しております。この度、第4期原画公開「〈遠侍〉虎の間の障壁画 ～御殿を護る竹林の王者～」の開催について詳細が決まりましたので、お知らせします。今回は、令和4年の干支「寅」にちなみ、虎を描いた〈遠侍〉一の間・二の間の障壁画、そして廊下の杉戸絵を公開します。是非、この機会に二条城へお越してください。

1 会期

令和3年12月20日（月）～令和4年2月20日（日）〔60日間〕
※令和3年12月29日（水）～31日（金）は休館します。

2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分） ※二条城の入城受付は、午後4時まで。

3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館
（京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）
※二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

4 入館料

100円（未就学児無料）
※別途入城料が必要。
※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方については、入館料を徴収しません。

5 公開作品

- （1）〈遠侍〉一の間・二の間障壁画《竹林群虎図（ちくりんぐんこず）》
〈遠侍〉杉戸絵《竹虎図（ちっこず）》（障壁画面数：18面）
- （2）解説及び見所 裏面のとおり

6 お問合せ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所
〔〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地〕
〔TEL：（075）841-0096 FAX：（075）802-6181〕

とおざむらい
 〈遠侍〉 虎の間の障壁画～御殿を護る竹林の王者～

今回の展示では、令和4年（2022）の干支「寅」にちなみ、虎が描かれた障壁画を公開します。〈遠侍〉は、二の丸御殿のなかで最大の天井高と面積を誇る棟です。御殿に入った人が、将軍との対面や、老中との挨拶の前に待機した場所と考えられています。このうち、一の間から三の間の襖と壁面、そして西側廊下の杉戸絵には、合わせて虎21頭、豹15頭が描かれており、今回展示する障壁画には、虎8頭、豹7頭が描かれます。虎と豹と一緒に描かれるのは、これらが同種の動物と捉えられたためと考えられます。

虎は、その大きさ、^{どうもう} 獰猛さから、古代より人間に恐れられてきました。玄関近くの空間に虎を描く理由は、その魔除けの力を以て建物の出入口を守護するため、また、御殿に入る者に対し^{いふ} 畏怖の念を抱かせるため、さらには、^{あんねい} 猛獣が安寧に暮らす空間を描くことによって、それを可能なものとする^{やかた あるじ} 館の主の権力を示すためと言われます。

今回展示する〈遠侍〉一の間障壁画と杉戸絵には、鋭い眼差しをたたえた虎のほか、軽やかに走り、眠り、前足を舐めて安らぐ姿の虎が描かれています。また、二の間の障壁画には、大きく足を拡げて水を飲む迫力ある姿の虎に加え、そこにじゃれつく小さな豹が描かれるため、^{なご} 和やかな雰囲気も追加されています。ここには、虎豹が安らかに、また楽しげに暮らす世界を描き出すことで、館の主、すなわち徳川幕府の将軍の力の大きさが示されているといえるでしょう。大画面に描かれた、高く伸びる竹林と虎たちの堂々たる^{くつろ} 姿態とともに、^{たわむ} 寛ぎ、あるいは戯れる、その豊かな表情も見どころです。



〈遠侍〉二の間障壁画《竹林群虎図》部分



〈遠侍〉杉戸絵《竹虎図》部分